

棟梁集

十三

4772  
11



門 2  
號 4772  
卷 11

昭  
和  
四  
十  
二  
年  
二  
月  
二  
日  
高  
田  
早  
苗  
氏  
贈

村

江

步



Faint, illegible bleed-through text from the reverse side of the page, appearing as light grey or blue ink marks.

A blank, aged page with a light cream or yellowish tint, showing signs of wear and discoloration.

初春

初春見鶴

初春見鶴

初春見鶴

初春見鶴

初春見鶴

初春見鶴



初春見鶴

初春見鶴

初春見鶴

初春見鶴

初春見鶴

水鮮梅花

○ 雪のうらみの柳をくけはる  
さゆふの氷は流るる

幻裡同書

あけ—まきの日かほしきけのゆき  
照らすいさよ—あつた

待花

10

あけ—まきの日かほしきけのゆき  
照らすいさよ—あつた

秋のまきの日の枯柳

あけ—まきの日かほしきけのゆき

あけ—まきの日かほしきけのゆき

雨の中柳

あけ—まきの日かほしきけのゆき  
照らすいさよ—あつた

天保三年といふやうな

正月の廿七日

宿願成就の事を祈使し

御事のいけいそとたかしくけ

今日とて君の忠のみあつた

おめしはんとおひらけ

教中

いふれりしおをそと

いふれりしおをそと

那有北窓

三月二日七回心齋

いふれりしおをそと

あつたやうな

子母由誠うい

唐をまらふの一同

を荒田のちを

とてあつたやうな

さきよのいけいそと

増上寺の在願の宿願

いふれりしおを

何れも其の如く  
其れはさかきととて  
○ 其れはさかきととて  
其れはさかきととて

温泉

其れはさかきととて  
其れはさかきととて  
其れはさかきととて  
其れはさかきととて

其れはさかきととて  
其れはさかきととて  
其れはさかきととて  
其れはさかきととて

温泉

其れはさかきととて  
其れはさかきととて  
其れはさかきととて  
其れはさかきととて

温泉

○ 其れはさかきととて  
其れはさかきととて  
其れはさかきととて  
其れはさかきととて

神記

春のあけつきの御くまのまゝに  
あつたまにまはるる

○世のまゝまゝにまはるる

のまはるる

まはるる

あつたまにまはるる  
あつたまにまはるる

神記

いづれもまはるる

まはるる

あつたまにまはるる

まはるる

あつたまにまはるる

あつたまにまはるる

神記



○子歌  
もほのあふし  
おほのあふし  
おほのあふし

おほのあふし

○あまの  
あまのあふし  
あまのあふし  
あまのあふし

○あまの  
あまのあふし  
あまのあふし  
あまのあふし

おほのあふし

○あまの  
あまのあふし  
あまのあふし  
あまのあふし

○あまの  
あまのあふし  
あまのあふし  
あまのあふし

○あまの  
あまのあふし  
あまのあふし  
あまのあふし

あまのあふし

あまのあふし  
あまのあふし  
あまのあふし  
あまのあふし

杜子

佛も此のまゝのしるしを  
たれり

七

かゝるまじき名も  
たれり

金灯籠

半丁の二枚の  
たれり

夕立

かゝるまじき名も  
たれり

客は此の  
のまじき名も  
たれり

おと

此のまじき名も  
たれり

ありし時

此のまじき名も  
たれり

天保三年

院を  
たれり

お神山...  
あきつち...  
あきつち...  
あきつち...

お神山

お神山...  
お神山...  
お神山...

お神山...  
お神山...

お神山...  
お神山...  
お神山...

お神山

お神山...  
お神山...  
お神山...

お神山...  
お神山...

お神山

お神山...  
お神山...  
お神山...

お神山...  
お神山...

お神山

お神山...  
お神山...  
お神山...

お神山...  
お神山...

お神山

お神山...  
お神山...  
お神山...

お神山...  
お神山...

九月廿三日

冬所をめぐりて見ゆれば思ひはか  
る雨をたふれせり

和歌

兼下弟信の

有秋の枝のさすのけり  
常の日はみ

既菊

のけり  
み

おまへはふん  
おみゆり

夏月左と右  
信明

日ある西の濱と

日はけり

人の世

人の世

ちの

若菜の如くはつと  
さくさくのうちにあつた  
清

在存 草子能 委の ぶしと

ん ぶしと

○ びんのかいをたたらをみとみせらる

かたがは  
あつた  
あつた

清平子んあつた  
くあつたをみとみせらる

んのかいをたたら

○ あつたをたたらをみとみせらる

2. あつたをたたらをみとみせらる

紅葉映水

さくらあつたのあつたをみとみせらる

あつたをみとみせらる

いっしあつたをみとみせらる

あつたをみとみせらる

初身の時  
おみまに  
初し  
おみまに  
おみまに

一  
おみまに  
おみまに

天保三年の正月  
おみまに  
おみまに

おみまに  
おみまに

おみまに  
おみまに

おみまに  
おみまに

おみまに  
おみまに

おみまに  
おみまに

おみまに  
おみまに

新地は  
くらのういふれのみし  
とらうえこみか

右  
りちのふたの  
お年ううちんめ

實定法師

らーい  
まはるも  
まはるも  
まはるも

川  
井と湖  
七

の  
ちを  
たけ

電  
端

中  
の  
の

枯

○高井の柳の影は水に流る  
安んじりては  
照りては長き影を  
人の心もいりては枯れぬ

高井の柳の影は水に流る  
安んじりては  
照りては長き影を  
人の心もいりては枯れぬ  
舟の影も水に流る  
舟の影も水に流る  
舟の影も水に流る  
舟の影も水に流る

○早春湖  
柳の影も水に流る  
舟の影も水に流る  
舟の影も水に流る  
舟の影も水に流る  
舟の影も水に流る  
舟の影も水に流る  
舟の影も水に流る







○ おのう初秋はげさ天荒り  
ふのはかあまのういれ  
けいさのういれ  
かぢく 秋のういれ  
かぢく 秋のういれ

春月 晩静

春の月とて  
あまのういれ  
あまのういれ

あまのういれ  
あまのういれ  
あまのういれ  
あまのういれ

子

あまのういれ  
あまのういれ  
あまのういれ  
あまのういれ

のあまのちしめんおとせ  
きつとねいせい

おとせたりしあまのちしめんおとせ  
きつとねいせい

おとせのね

おとせのね  
おとせのね  
おとせのね

おとせのね

おとせのね  
おとせのね  
おとせのね  
おとせのね

おとせのね  
おとせのね  
おとせのね  
おとせのね

おのれおのれおのれ  
おのれおのれおのれ  
おのれおのれおのれ  
おのれおのれおのれ  
おのれおのれおのれ

おのれおのれおのれ  
おのれおのれおのれ  
おのれおのれおのれ  
おのれおのれおのれ  
おのれおのれおのれ

おのれおのれおのれ  
おのれおのれおのれ  
おのれおのれおのれ  
おのれおのれおのれ  
おのれおのれおのれ

おのれおのれおのれ  
おのれおのれおのれ  
おのれおのれおのれ  
おのれおのれおのれ  
おのれおのれおのれ

七五

終つて年の秋のふらふらの空の  
そよよとよよとよよとよよとよよと

とりのつと

まはれをひらきとて可いふまの  
あらのこどもよのまをいふま

あつたつたのまのまのまの  
おれをいふまのまのまの

まはれをひらきとて可いふまの  
あらのこどもよのまをいふま

とりのつと

まはれをひらきとて可いふまの  
あらのこどもよのまをいふま

あつたつたのまのまのまの

あつたつたのまのまのまの

あつたつたのまのまのまの

さやけの葉をうへのまきよ  
みやしとらうらんを船きくら船の  
わらういあるはちしあふこ

密閉の船の船を船よ

この舟の中は船よ

船は船よ 船は船よ

さやけの葉をうへのまきよ  
みやしとらうらんを船きくら船の  
わらういあるはちしあふこ

山あけ

世を木の葉をうへのまきよ

みやしとらうらんを船きくら船の

わらういあるはちしあふこ

さやけの葉をうへのまきよ

菊も盛す

はものたをいしつゝのの  
さうあまのあま

松室の真珠のあまの  
うまおれ

尺のそいふあまの  
あまもつちあま

信濃のふ井郎中治村の  
あまのあまのあまの  
あまのあまのあまの

あまのあまのあまの

あまのあまのあまの  
あまのあまのあまの

あまの

あまのあまのあまの  
あまのあまのあまの

あまのあまのあまの  
あまのあまのあまの

あまのあまのあまの



いぢしるくさるの草しらぬは  
海士のいさりのさうけめし

梅とそね

あつたの能くさのき、初おんかきく  
ましまいさあゆき  
とれつよりのまの人のさうけめし  
あまのいさりのさうけめし

芳路を

昔年のさうけめしのさうけめし  
いさりのさうけめし

梅檀あつたのさうけめし

昔年のさうけめしのさうけめし  
あつたのさうけめし

梅檀あつたのさうけめし

あつたのさうけめしのさうけめし  
いさりのさうけめし

第

るあの物いりいりふけりてあはれとての事  
とさるるけいりりん

遊神人のまじりていり

さうと浮舟いりてふははれはくもさく  
しと人けりまの事ぬ

秋之日

さああいりりいりいりあはれあはれ  
秋さうさういりいりあはれ

梅

ゆいとかつたあはれけりあはれ  
若きゆいさうさういり

若木梅

若梅もをわきしあはれあはれ  
はさしりいりあはれ

梅

○小まゝにわたりていりあはれあはれ  
あはれあはれあはれあはれ

龍云

紅子一こころあり一龍云あくとい  
あしあやめいせ

岩屋の海邊を昇

うしろし地

君うき  
しあふあふあふ

えの

てげらの老りいふのき一あをさと  
いふうん君うたの

春月

新付けやい習ふはと次行かみぬ  
む本の四方の春月

春月

○春雨のあふふは新の秋をうた  
はあゆむあふ

紅霞映綠樹

あまのふきの木に此をそいで  
影のまはりのうはをぬる

松色若久

一は松をねはばあまふしのま  
白葉えん松のまの影

意亭

かこいの意おもひうらむるは

又ぬし子と申のく歌

初巻

春の影のあけくはははら  
ほまへせと申のまのま  
雪の枝にけしと春のま  
雨のまの又の一巻  
あまのまのまのまのまのま  
あまのまのまのまのまのま

社流梅

菅野天神の御

雪のふりかへて花梅の香りよ  
春のよやぬふる

六宮のなほうさうしよやん

秋のよき

雪のふりよあまのつーかにち  
ふらふらけりよのなほけりよ

○ちつととおもふあやふら

子とあまのつらうのこめ

價なき珠のありあふら

飛吹うらふら

○みをとれあふら

落つよものかたえ

春あふらふら

法とあふらふら

あつよ世を捨つらふら

夕の月影をいふ

松平納言

のよきとものつらき一見は

さきの松平下はみん

たし又樂しき世のなご

尚も見ゆをわがけ

重為友

言のうけとおこしうくのせのか

まきつてたしむ

おんあつらまじりの形をあらわす

あつら子

あつらまじりおけくまの

あつらまじりおけくまの

辻儀

人あつらまじり金身利高

無常推移世あつらまじり

あはれをみそとてつるまのり  
ふきのかけふとひまふと  
潮芝山蟹鮎密奉

可笑親之

思見芝嶺鶴蚌躰驚波

悲喜好考先陳詞得功

春曙

○やいそん 毛ゆらゆら  
こころのを月し

天保三年一月四日

大政ありし時増と寺ととゆふ

法師 喜よしとみあつと増と

寺の役者徳元 寮司 教音

ととよとよと評議しつとや

ととよと増と慢の天物ととそれ

ととと天物ありと

あつたは一のふたのふたのふた  
あつたは一のふたのふたのふた

あつたは一のふたのふたのふた

あつたは一のふたのふたのふた

あつたは一のふたのふたのふた

あつたは一のふたのふたのふた

あつたは一のふたのふたのふた

あつたは一のふたのふたのふた

梅柳交枝

あつたは一のふたのふたのふた

あつたは一のふたのふたのふた

あつたは一のふたのふたのふた

あつたは一のふたのふたのふた

あつたは一のふたのふたのふた

あつたは一のふたのふたのふた



君の心はさうなるべし  
千代の時おまじり

模倣

母ををたらしと  
まら年のあし

千代の時おまじり

父の心はさうなるべし  
花をぬき

からし  
千代の時おまじり

相模野山

田名  
上人

蒲

まじり

春の流の心とあやかる女よねの  
泣く春をよめあはれいぬ

春祝

○ 春の心とあやかる女よねの  
泣く春をよめあはれいぬ  
春をよめあはれいぬ  
春をよめあはれいぬ

春の心とあやかる女よねの  
泣く春をよめあはれいぬ

春をよめあはれいぬ  
春をよめあはれいぬ

春の心とあやかる女よねの  
泣く春をよめあはれいぬ  
春をよめあはれいぬ

清港院殿の廿七回忌  
極度の方へ行くは其  
懐の初をなす  
新のありのありの  
もつをなす  
て保正四年六月  
名の六田次

申御言  
より日  
そ

馬  
於  
お  
り  
ら

萩をその方かかるとは  
 門人小道後をいふ  
 けりゆふをいふとらふ  
 ありてはさうさう  
 えおのいふげさうと  
 ありて  
 けりゆふかきさうと  
 おくさうらふさうと

月如氷とらふと  
 本名とらふ

さうさういふとらふと  
 月如氷とらふと  
 けりゆふかきさうと  
 おくさうらふさうと  
 ありてはさうさう  
 えおのいふげさうと  
 ありて

○ 一 尚て 未ん 事 成 けり 目 録  
水 舟 とも あり けり

位 先 法 師 坊 じ あり 日  
行 舟 職 あり けり 目 録  
相 尋 舟 あり けり 目 録

舟 あり けり 目 録  
舟 あり けり 目 録

津 國 離 舟 あり けり 目 録  
舟 あり けり 目 録

遊 然 杯 恩 百 葉 長  
延 統 遊 聖 神 化 境 何  
時 醉 夢 醒  
舟 あり けり 目 録

舟 あり けり 目 録  
舟 あり けり 目 録

日



空々しくしに於てとてやまんおまの  
けしよとてあしと君しとるん

信月書

日らあはさしとるわんも  
ずととるそんともあ

千戸の満士山本景興

三千の

十ととるそんともあ  
相浦の

高松祝

〇まらとてしとるそんともあ  
月書とてあしとるそんともあ

并

七人のしとるそんともあ  
はみとるそんともあ  
りたるそんともあ  
鏡の力おあ人

石山秋月

いづきかきしはた石山の峰  
はまをゆく秋の月  
見せしと雲の影もあまの月

比叟書

あまの月を  
見せしと雲の影もあまの月

辛嶋書

○ 辛嶋の村ありし  
あまの月を

見せしと雲の影もあまの月

三井書

あまの月を  
見せしと雲の影もあまの月

矢野書

○ 矢野も舟を  
見せしと雲の影もあまの月



常は勝定

○海のおもひあはしのかまよ

かぬしとよの常は勝定

勢より

○古おのちのそりなりし名は

とくをうきかゝるる唐橋

空の唐橋

○碁のうまひとあはれおのちの  
はるけきのやく陣

年の唐橋

○年のわらわらうけのこゝろ  
再なるまをすはる

とら

○はるけきのうまひとあはれ  
可なりはるけきのうまひ

定因法師の開講

すくつゝえにほむるもよまにわ  
君の序けりともよまにほむる

すくつゝえにほむるもよまにわ

今よきとんむるのしき

今よきとんむるのしき

節分の準備

福の内へしきまゝの世を  
見まゝくせしめ

増上る志願大僧の七十の  
二若城とつゝくしめおよ

まをん

世におよぶおほ樹の葉を  
かへくつゝえにほむる

人のあはれにほむるもよまにわ  
こととすむるもよまにわ  
はか

くら積おし古らぬをけり  
この糸子無難  
かたて

海舟のちの日のけり  
糸いしるは  
考  
か  
と

伊  
ふ  
な  
ま  
し  
海  
舟  
の  
糸  
子  
無  
難  
か  
た  
て  
海  
舟  
の  
糸  
子  
無  
難  
か  
た  
て

海舟の糸子  
かたて  
糸子  
かたて

中書少輔の如く、いふもの珠の  
をえある長や、こゝに

こゝのさうなまのふらふら

○ 水はさしきりこゝにささる  
よゝい。なまのふらふら

夕立

夕立のいふくは、いふまゝ  
いふまゝせんかゝる

清光院の正持と秋葉の  
いふをいふのいふのいふ

いふとさうのいふ世のあまの  
いふとさうのいふ世のあまの

清光院

いふのいふの

花所といふいふのいふのいふ

倉橋のいふのいふのいふのいふ

いふ

いふのいふのいふのいふのいふの  
いふのいふのいふのいふのいふの

ふきりしやちそちさかおつとらん ちの松  
ふよみちしむん

江月

ふの海 ちの松  
さしつみねのちの松

あつこしあ

あつ秋 ぶらちさしりつそ 海  
あつ海 のちの松

秋懐

12月

あつりのあつち ちの松  
ちの松のちの松

あつちのちの松のちの松  
ちの松のちの松のちの松

あつちのちの松のちの松  
あつちのちの松のちの松

天保二年の秋大坂御營此の  
御方の御方御方御方御方  
の運轉も御方御方御方御方  
の御方御方御方御方御方  
御方御方御方御方御方御方

御方御方御方御方御方御方  
御方御方御方御方御方御方  
御方御方御方御方御方御方  
御方御方御方御方御方御方  
御方御方御方御方御方御方

御方御方御方御方御方御方  
御方御方御方御方御方御方  
御方御方御方御方御方御方  
御方御方御方御方御方御方  
御方御方御方御方御方御方

春

御方御方御方御方御方御方  
御方御方御方御方御方御方  
御方御方御方御方御方御方  
御方御方御方御方御方御方  
御方御方御方御方御方御方

二重の油  
三才しは柳の中の花標  
七つう執なる

栽梅

○もつる一市梅を氣置ん  
とたぬ

かたしあまきり

そらりの様  
たらりの方

二重の福やま

しんまあまのしんま  
たらのまのま

山花景興

福うけ  
人ま

たれあ

れあ  
はあ

熱田宮  
唐の宮のたのむに  
あはれみの  
中をしる

栗

○さかひの  
接ぐ唐の栗

吟海の  
くさるる

くさるる  
唐の栗

現世を穂とよむ

今世を穂とよむ  
今世を穂とよむ

今世を穂とよむ  
今世を穂とよむ



言わたりて白濁

言わたりて白濁と云ふは  
腎を好くすべし

水向きの脚子

多如神 言わたりて白濁と云ふは  
腎を好くすべし

六丁のしるし  
脚子のしるし

くもつらふやもも  
くもつらふやもも

脚子

言わたりて白濁と云ふは  
腎を好くすべし

脚子のしるし

言わたりて白濁と云ふは  
腎を好くすべし

巻

るあまのまはらにふはらりて  
いごおまはらにふはらりて

佐御とちりて因一

まろくとくまのあまのまはらりて

今けりあまのまはらりて

肥後ちりてのまはらりて

しりてあまのまはらりて

まろくとくま

あまのまはらりて  
あまのまはらりて  
あまのまはらりて  
あまのまはらりて

あまのまはらりて  
あまのまはらりて  
あまのまはらりて  
あまのまはらりて

思不

あまのまはらりて  
あまのまはらりて  
あまのまはらりて  
あまのまはらりて

水新

あまのまはらりて  
あまのまはらりて  
あまのまはらりて  
あまのまはらりて

夏守

あつーと 孫女な 髪な いふふよいふふよー

夕暮

あはほえぬお花のころよあつてさーか  
ちくしき方の夕暮

夕暮

もほーこのころよあつてさーか  
ちくしき方の夕暮

夕暮

さうさういふお花のころよあつてさーか  
ちくしき方の夕暮

非社公

あーあぬ 夕暮のころよあつてさーか  
ちくしき方の夕暮

夕暮のころよあつてさーか

あつてさーか

あつてさーか

あつてさーか

あつてさーか

あつてさーか



諸君

いふことしるのなまぢのふのふの  
まふしつてゆふまぢ

物おとすはまぢ 村面 物おとすはまぢ おとすはまぢ

みふれ 名おとす 物おとすはまぢ おとすはまぢ

まふれ 物おとす 物おとすはまぢ おとすはまぢ

何とて 物おとす 物おとすはまぢ おとすはまぢ

あふれ 物おとす 物おとすはまぢ おとすはまぢ

まふれ 物おとす 物おとすはまぢ おとすはまぢ

あふれ 物おとす 物おとすはまぢ おとすはまぢ

道葉の池村月 田田田田

信の池村月

左に田々之野の草に

信の池村月

確の池村月

信の池村月

確の池村月

信の池村月

信の池村月

信

信の池村月

信の池村月

信の池村月

信の池村月

信の池村月

信の池村月

信の池村月

信の池村月

五月の末に 杉の葉を詰り

紙に包みしものを

みこしりやまをくわいしもの入の

まの木の葉やつらまをくわい

涼

若狭の海から海あやみの海に

先登りし人も

弘化二年十月廿二日 斗り  
りの杉の葉をとらまをくわい

先のこふみありあつて 杉を

若狭の海に石の舟を

かきこめて 杉の葉を

しづ井の跡に水の跡を

後しづ井の跡に水の跡を

杉の葉を

里の

と左のものを

の杉の葉をしづ井の跡に

枯木より白鹿のよきとあるが  
 のりる向款に 報州 由井正  
 雲うきとよ名印のあは  
 耐うりしとさういふとら  
 慶女三曆七日ナカと記す  
 うりしとあやうしとあり  
 中何たはしる言もある人  
 中しと右のふりよりありて  
 といふと <sup>たはし</sup> 名うのたはしと  
 といふと

甲斐の海 <sup>の</sup> 石奈と舟中の  
 同の軍 <sup>の</sup> 所 <sup>の</sup> くらとよ 因存の  
 二市の沖 <sup>の</sup> 様 <sup>の</sup> 集 <sup>の</sup> 集 <sup>の</sup> 集  
 とよよ <sup>の</sup> 集 <sup>の</sup> 集 <sup>の</sup> 集 <sup>の</sup> 集  
 ちち <sup>の</sup> 集 <sup>の</sup> 集 <sup>の</sup> 集 <sup>の</sup> 集  
 なる <sup>の</sup> 集 <sup>の</sup> 集 <sup>の</sup> 集 <sup>の</sup> 集  
 こ <sup>の</sup> 集 <sup>の</sup> 集 <sup>の</sup> 集 <sup>の</sup> 集  
 集 <sup>の</sup> 集 <sup>の</sup> 集 <sup>の</sup> 集 <sup>の</sup> 集  
 集 <sup>の</sup> 集 <sup>の</sup> 集 <sup>の</sup> 集 <sup>の</sup> 集  
 集 <sup>の</sup> 集 <sup>の</sup> 集 <sup>の</sup> 集 <sup>の</sup> 集





いづれはかゝるにぬきこ不動  
の社に祀られしをいふ  
ちのうらふりきり年のからよ  
かきむくしうらふりきり年か  
村あり大福をいふつ務院  
のうらふりきり年か下季  
重の上輪の塔らふりきり  
三つりしうらふりきり年か  
とありしとありし阿佐川をいふ

アとそ最末の橋の村より  
津島  
赤松の若菜亭の所軍配扇  
の旗をいふとありし社に  
祀る

いふとそ最末の橋の村より  
津島  
赤松の若菜亭の所軍配扇  
の旗をいふとありし社に  
祀る



けりやうえ平とよのよかち  
ぬとまゝにぬかひ

弘化二年とりにあつたの十日の  
けりやうえ平とよのよかち  
ぬとまゝにぬかひ  
ぬとまゝにぬかひ  
ぬとまゝにぬかひ  
ぬとまゝにぬかひ

ぬとまゝにぬかひ  
ぬとまゝにぬかひ  
ぬとまゝにぬかひ

ぬとまゝにぬかひ  
ぬとまゝにぬかひ  
ぬとまゝにぬかひ

ぬとまゝにぬかひ  
ぬとまゝにぬかひ  
ぬとまゝにぬかひ

おまじ

カキ  
おまじのうらなひはかき  
かきまじりよきよき

弘化二年より一の二りの  
時の本末

赤松の片方  
おのれもゆり  
おまじ

おまじ

赤松の片方

おまじ

おまじ

おまじ

おまじ

おまじ

おのゝりしきりしきりし

おのゝりのまゝにのこす

おのゝりしきりしきりし

おのゝりしきりしきりし

おのゝりしきりしきりし

おのゝりしきりしきりし

おのゝりしきりしきりし

おのゝりしきりしきりし  
おのゝりしきりしきりし  
おのゝりしきりしきりし  
おのゝりしきりしきりし  
おのゝりしきりしきりし

お

おのゝりしきりしきりし  
おのゝりしきりしきりし  
おのゝりしきりしきりし

おきしきみさうの舟の舟をれを  
ゆるむ杖ふさうく

備随院の大休加尚

を一田胡の焚

おののゆふとくしそく

すき造、乾床極具<sup>スヤ</sup>傳  
此<sup>スヤ</sup>伝とりふとも

かこまは鼻を掩しを併し  
いとくいとちん干床<sup>スヤ</sup>た  
形をいぬをよくすもはけ  
とひちい<sup>スヤ</sup>氣をひふふよあや

ほきんをいけよ

ぶうつうし<sup>スヤ</sup>者のなげか<sup>スヤ</sup>し  
七也<sup>スヤ</sup>神のしほ<sup>スヤ</sup>す<sup>スヤ</sup>の<sup>スヤ</sup>年





ちうはひいこもさしき  
いふはひいぢぢぢぢぢ  
アハハハハハハハハハ  
水居のちぢぢぢぢぢぢ  
かきかきかきかきかき  
けいけいけいけいけい  
とさりてさかかん  
いぢいぢいぢいぢいぢい  
けいけいけいけいけい  
けいけいけいけいけい

いぢいぢいぢいぢいぢい  
けいけいけいけいけい  
けいけいけいけいけい  
けいけいけいけいけい  
けいけいけいけいけい

あしあしあしあしあし  
あしあしあしあしあし  
あしあしあしあしあし  
あしあしあしあしあし

餘世

身も片捨つ所御も  
おむしの後ハ御し

吾田合世の二の二の二  
お観の書を記述しけし

菊の葉も一はふりあふ  
よのの枝もあつる

花仲御のあはれ

かきつけ

いふ平の河思ひのん玉枝

あまの玉とんうき捨し

舞姫名あつる

逆浪の舟もいふ所

あまのらん 船橋 船橋

中りあまのあつる  
あまのあつる

しつゝと改めんとす一紙の  
定むるあかす

拾遺

天保十二年と云ふは

柳屋と云ふは

足利の宮行きの

と云ふは

市岡の

と云ふは

戈をいふは

三木を指す

中をいふは

清をいふは

清をいふは



中流の舟はさうさうに波に揺られてゆく。その波はさうさうに

舟を揺るがす。舟はさうさうに波に揺られてゆく。その波はさうさうに

舟を揺るがす。舟はさうさうに波に揺られてゆく。その波はさうさうに

舟を揺るがす。舟はさうさうに波に揺られてゆく。その波はさうさうに

舟を揺るがす

舟を揺るがす。舟はさうさうに波に揺られてゆく。その波はさうさうに

舟を揺るがす。舟はさうさうに波に揺られてゆく。その波はさうさうに

天保二年九月六日

水戸の宰相殿様のお名前を記し、御返事を願ひ申上る。

舟を揺るがす。舟はさうさうに波に揺られてゆく。その波はさうさうに

舟を揺るがす。舟はさうさうに波に揺られてゆく。その波はさうさうに

水戸の西山菅門の君へうきとほし杖系拾遺集の註  
 釈のこゝより（註）史記の史記はまうせうとせうとせう  
 世にわらふ素のむせふよのなもくせうせうせうせうせう  
世にわらふ素のむせふよのなもくせうせうせうせう  
世にわらふ素のむせふよのなもくせうせうせう

中よりけい白まやうて神を月をこゝちをさうちをえん  
 三才の文のこやのちのちもけいこちやくせうの日記  
 光河の史記と傳學にはいふちのちのちのちのちのち  
（註）

少石川にはまはるすのねをえんちのちのちのちのちのち  
 平太の既述の史記をいふちのちのちのちのちのち  
 史記の史記の史記の史記の史記の史記の史記の史記  
 天保三年四月九日えんちのちのちのちのちのち  
 年月のちのちのちのちのちのちのちのちのちのち

止園をいふ

よむめあひのちのちのちのちのちのちのちのちのち  
（註）

ちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち  
（註）

ちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち  
（註）

ちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち  
（註）

ちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのちのち  
（註）

春祝

梅の香もさきとて春の光もさきとて春の光もさきとて  
天保四年

わが世の春もさきとて春の光もさきとて春の光もさきとて  
わが世の春もさきとて春の光もさきとて春の光もさきとて  
ゆき雪の春もさきとて春の光もさきとて春の光もさきとて

春の光もさきとて春の光もさきとて春の光もさきとて

詠懐学

何れも書きたるはあまの春もさきとて春の光もさきとて

水戸の宰相の君御局国の子御もさきとて春の光もさきとて

よめ

春の光もさきとて春の光もさきとて春の光もさきとて  
春の光もさきとて春の光もさきとて春の光もさきとて

春の光もさきとて春の光もさきとて春の光もさきとて

春の光もさきとて春の光もさきとて春の光もさきとて

春の光もさきとて春の光もさきとて春の光もさきとて

お家江州文の一月の春の光もさきとて

春の光もさきとて春の光もさきとて春の光もさきとて

春の光もさきとて春の光もさきとて

春の光もさきとて春の光もさきとて春の光もさきとて

春の光もさきとて春の光もさきとて春の光もさきとて

春の光もさきとて春の光もさきとて春の光もさきとて

春の光もさきとて春の光もさきとて春の光もさきとて

春の光もさきとて春の光もさきとて春の光もさきとて

春の光もさきとて春の光もさきとて春の光もさきとて

春の光もさきとて春の光もさきとて春の光もさきとて

二月朔の夜に... 雲を懸て...  
よりいあし...

あつふかほ... 雲を懸て...  
あつふかほ... 雲を懸て...

西名の... 雲を懸て...  
あつふかほ... 雲を懸て...

あつふかほ... 雲を懸て...  
あつふかほ... 雲を懸て...

あつふかほ... 雲を懸て...  
あつふかほ... 雲を懸て...

あつふかほ... 雲を懸て...  
あつふかほ... 雲を懸て...

あつふかほ... 雲を懸て...  
あつふかほ... 雲を懸て...

山科地... 雲を懸て...  
あつふかほ... 雲を懸て...

あつふかほ... 雲を懸て...  
あつふかほ... 雲を懸て...

あつふかほ... 雲を懸て...  
あつふかほ... 雲を懸て...

あつふかほ... 雲を懸て...  
あつふかほ... 雲を懸て...

あつふかほ... 雲を懸て...  
あつふかほ... 雲を懸て...

あつふかほ... 雲を懸て...  
あつふかほ... 雲を懸て...

あつふかほ... 雲を懸て...  
あつふかほ... 雲を懸て...



己出

七月終つて臨御木の馬舎より田を耕すに西風と

風をまじりて吹くを云ふ耕すに秋の心秋の心は秋の心秋の心

七月あつた馬を御して停まらば

そのまゝの馬を御して停まらば秋の心秋の心

八月終つて臨御木の馬舎より田を耕すに西風と

風をまじりて吹くを云ふ耕すに秋の心秋の心

八月あつた馬を御して停まらば

そのまゝの馬を御して停まらば秋の心秋の心

八月あつた馬を御して停まらば

八月あつた馬を御して停まらば

そのまゝの馬を御して停まらば

八月あつた馬を御して停まらば

八月あつた馬を御して停まらば

己出

八月あつた馬を御して停まらば

そのまゝの馬を御して停まらば

八月あつた馬を御して停まらば

そのまゝの馬を御して停まらば

八月あつた馬を御して停まらば

そのまゝの馬を御して停まらば

八月あつた馬を御して停まらば

八月あつた馬を御して停まらば

八月あつた馬を御して停まらば

そのまゝの馬を御して停まらば

八月あつた馬を御して停まらば

そのまゝの馬を御して停まらば

八月あつた馬を御して停まらば

八月あつた馬を御して停まらば

高き山に坐して神の目新しむるに  
*高の山あり*  
神の目新しむるに

九りの山に坐して神の目新しむるに  
九りの山に坐して神の目新しむるに

九りの山に坐して神の目新しむるに  
九りの山に坐して神の目新しむるに

九りの山に坐して神の目新しむるに  
九りの山に坐して神の目新しむるに

九りの山に坐して神の目新しむるに  
九りの山に坐して神の目新しむるに

九りの山に坐して神の目新しむるに  
九りの山に坐して神の目新しむるに

九りの山に坐して神の目新しむるに  
九りの山に坐して神の目新しむるに

九りの山に坐して神の目新しむるに

九りの山に坐して神の目新しむるに

九りの山に坐して神の目新しむるに

九りの山に坐して神の目新しむるに

九りの山に坐して神の目新しむるに

九りの山に坐して神の目新しむるに

九りの山に坐して神の目新しむるに

九りの山に坐して神の目新しむるに

Shimada no Shikō

目録ありてのしるしありあはれなるものありては  
あはれなるものありてはあはれなるものありては  
あはれなるものありてはあはれなるものありては  
あはれなるものありてはあはれなるものありては

土佐の川

土佐の川

天保六年正月

天保六年正月

あはれなるものありてはあはれなるものありては

あはれなるものありてはあはれなるものありては

天保六年正月

天保六年正月

天保六年正月

天保六年正月

あはれなるものありてはあはれなるものありては

あはれなるものありてはあはれなるものありては

あはれなるものありてはあはれなるものありては

天保六年正月

あはれなるものありてはあはれなるものありては

あはれなるものありてはあはれなるものありては

天保六年正月

天保六年正月

あはれなるものありてはあはれなるものありては

あはれなるものありてはあはれなるものありては

天保六年正月

あはれなるものありてはあはれなるものありては

あはれなるものありてはあはれなるものありては

あはれなるものありてはあはれなるものありては

あはれなるものありてはあはれなるものありては

藤原市のある梅枯旭日早登り

さうき場のこもさうきうわさしあもぬくまうさうき  
三月十日金巻柳花曝錦

をりるんやとらじ湯さてもさうきうわさしあもぬくま  
かき湯あつてしるみゆりけりあつてさうきうわさしあもぬくま

やんどのすなごら宮中戸のまねのたれさうき  
箱あつてさうきうわさしあもぬくま  
春は

まろさのうりさささあもぬくま  
はあつてさうきうわさしあもぬくま

ホス川さうきうわさしあもぬくま  
あつてさうきうわさしあもぬくま

九さうきうわさしあもぬくま

天保六年三月の五日

中身のさうきうわさしあもぬくま  
あつてさうきうわさしあもぬくま

さうきうわさしあもぬくま  
あつてさうきうわさしあもぬくま

あつてさうきうわさしあもぬくま  
あつてさうきうわさしあもぬくま

あつてさうきうわさしあもぬくま  
あつてさうきうわさしあもぬくま

あつてさうきうわさしあもぬくま  
あつてさうきうわさしあもぬくま

あつてさうきうわさしあもぬくま  
あつてさうきうわさしあもぬくま







空の陽を二古後秋夕

橋人の心ゆるりたる川に 流るる水はささるる

日あそび

さあめく移る心りりあやまねくこころをさるるのこころ

列不き

さうりくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

おとあそびあそびあそびあそびあそびあそびあそびあそびあそび

うののののののののののののののののののののののののののの

うののののののののののののののののののののののののののの

花の宮車から馬車の馬車馬車馬車馬車馬車馬車馬車馬車馬車

馬車馬車馬車馬車馬車馬車馬車馬車馬車馬車馬車馬車馬車馬車

日あそびあそびあそびあそびあそびあそびあそびあそびあそび

あそびあそびあそびあそびあそびあそびあそびあそびあそび

あそびあそびあそびあそびあそびあそびあそびあそびあそび

あそびあそびあそびあそびあそびあそびあそびあそびあそび

あそびあそびあそびあそびあそびあそびあそびあそびあそび

あそびあそびあそびあそびあそびあそびあそびあそびあそび

あそびあそびあそびあそびあそびあそびあそびあそびあそび

あそびあそびあそびあそびあそびあそびあそびあそびあそび

あそびあそびあそびあそびあそびあそびあそびあそびあそび

あそびあそびあそびあそびあそびあそびあそびあそびあそび

あそびあそびあそびあそびあそびあそびあそびあそびあそび

あそびあそびあそびあそびあそびあそびあそびあそびあそび

あそびあそびあそびあそびあそびあそびあそびあそびあそび

あそびあそびあそびあそびあそびあそびあそびあそびあそび

あそびあそびあそびあそびあそびあそびあそびあそびあそび

あそびあそびあそびあそびあそびあそびあそびあそびあそび

あそびあそびあそびあそびあそびあそびあそびあそびあそび

あそびあそびあそびあそびあそびあそびあそびあそびあそび

あそびあそびあそびあそびあそびあそびあそびあそびあそび

あそびあそびあそびあそびあそびあそびあそびあそびあそび

あそびあそびあそびあそびあそびあそびあそびあそびあそび

あそびあそびあそびあそびあそびあそびあそびあそびあそび

あそびあそびあそびあそびあそびあそびあそびあそびあそび















以下全て  
白紙

